

令和5年3月13日

京都市中央卸売市場運営協議会 会議録

開催日：令和5年3月13日（月）午後1時～午後2時15分

開催場所：京都市中央卸売市場第一市場 関連10号棟3階 大会議室

出席委員：合計16名（五十音順）

株式会社大水京都支社 執行役員支社長 浅田 佳史

京都青果物小売協同組合 理事長 石塚 清三

一般社団法人京都市中央卸売市場協会 会長 内田 隆

（京都青果合同株式会社 代表取締役社長）

大京魚類株式会社 代表取締役社長 大石 光二

京都水産物小売団体連合会 会長 岡本 勲

京都全魚類卸協同組合 理事長 勝村 一夫

市民公募委員 北村 勢津子

京都野菜卸売協同組合 理事長 久世 明

立命館大学食マネジメント学部 教授 工藤 春代

新日本婦人の会京都府本部 副会長 澤田 季江

京都市中央卸売市場関連事業者連合会 会長 澤田 利之

京都塩干魚卸協同組合 理事長 辻 泰三

京都中央市場青果卸売協同組合 理事長 中川 恵司

京都大学 名誉教授 新山 陽子

京都中央総合食品協同組合 理事長 原田 光佑

市民公募委員 平田 杏薫

欠席委員：合計4名（五十音順）

京都府農林水産部 副部長 小瀬 康行

全国農業協同組合連合会京都府本部 本部長 宅間 敏廣

一般社団法人京都市地域女性連合会 理事 森本 静子

市民公募委員 柳生 美来

事務局：京都市中央卸売市場第一市場 場長 古井 幸生

京都市中央卸売市場第一市場 次長 松村 憲司

京都市中央卸売市場第一市場 次長 張田 和宏

京都市中央卸売市場第一市場 参事 福島 正俊

京都市中央卸売市場第一市場 参事 中迫 健

京都市中央卸売市場第一市場 管理課長 奥村 成利

京都市中央卸売市場第一市場 技術課長 西浦 靖

京都市中央卸売市場第一市場 業務課長 中村 周平
その他 3名

- 議 題：**
- 1 会長の選任及び会長職務代理者の指名について
 - 2 「京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成28年度版）」の進捗状況について
 - 3 令和5年度の施設整備予定箇所について
 - 4 その他

質疑応答

1 会長の選任及び会長職務代理者の指名について

委員による互選により、新山陽子氏を会長に選任

新山会長から会長職務代理者（内田隆委員、勝村一夫委員）を指名

2 「京都市中央卸売市場第一市場マスタープラン（平成28年度版）」の進捗状況について (委員)

コロナ禍で中止となった事業については、今後再開していく予定か。

(事務局)

コロナの状況を踏まえ、見直すべきもの、新たに取り組むべきものがあるため、今後検討していく。なお、食彩市や鍋まつりについては、整備により閉鎖型の施設となったため、従前どおりの実施は難しいと考えている。

(事務局)

再整備により創出される賑わいゾーンをうまく活用するなど、市民の方に親しんでもらう方策を検討していきたい。

(委員)

インボイス制度への対応やデジタル化について、場内事業者における取組状況はいかがか。

(事務局)

デジタル化については、昨年度と今年度で仲卸業者に対する支援を行っている。

インボイスについては、基本的には各事業者で対応を進めていただくものだが、重要な制度改正のため、開設者としてもサポートをしていきたい。

(事務局)

組合ごとに勉強会などを行っていただいているが、個々の事業者によって温度差があるというのが実情であり、開設者としてもしっかりサポートしていく。

(委員)

食彩市などについては、大変な労力を伴うと思うが、是非、実施してほしい。市民の方々に市場を知ってもらうことは大変重要である。

(委員)

環境保全・環境配慮に関する取組として、廃プラスチック等のリサイクルを掲げられている。廃プラスチックをゼロにすることは極めて困難であることは承知しているが、例えば、ハンバーガーショップでは、プラスチックを使わない取組を行っている。市場ではどうか。

(事務局)

廃プラスチックを出さないということは社会的な課題となっているため、市場においても分別等の取組を積極的に進めている。市場内に発泡スチロールを減容できる設備を導入することも検討したが、課題も多く、現在は市場外の施設でリサイクルを行っている。また、プラスチックについても、しっかりと分別している。

(事務局)

業務上、プラスチック等の廃棄物はどうしても発生してしまうが、市場の事業者で構成する衛生自治会が指定ゴミ袋を導入するなど、ゴミの分別については、積極的に取り組んできた。発泡スチロールの減容についても、実際に実験してみたが、音と匂いとコストが大きな課題であった。

(委員)

プラスチックについては、生産者から運ばれてくるものがほとんどで、新たに市場で生じるものはほとんどない。生産から出荷まで一連の問題であり、また、プラスチックに代わる適切な物がある訳でもない。プラスチック以外の素材もあるが、コストや見た目の問題もあり、課題が多い。

(委員)

集荷力向上の取組について教えてほしい。また、本会議での議論をより有益なものとするため、次回以降、取扱量の推移がわかる資料を追加してほしい。

(事務局)

令和3年度の取扱量は約26万t、コロナ前の平成30年度は約28tであり、約8%の減少となっている。取扱量の増加については、産地との結びつきが大切であり、卸売業者と共同で、産地と連携した料理教室を実施する等の取組を行っている。また、仲卸業者も売り先の確保に尽力いただいている。

なお、取扱量の資料については、次回以降、添付させていただく。

(委員)

水産物に関しては、コロナ禍で全体的に出荷量が落ち込んでいる。しかし、数値には表れていないかもしれないが、産地の方は新しくなった市場をご覧になり、「安心して出荷できる」と言ってくれている。

(事務局)

取扱量については、少子化や温暖化など、様々な要因が影響している。また、単価は上がっても利益は増えない、といった問題もある。生産者等に喜んでいただけるよう、ソフトとハードの両面でしっかりと取り組んでいく。

(委員)

京都大学で、ゲノム編集によるトラフグの商品開発がされていると聞いている。健康への影響がないか心配しているのだが、市場を経由して流通されているのか。

(委員)

100%の安全が確認されない限り、市場で取り扱うことはない。

(委員)

遺伝子操作とゲノム編集は異なるものであり、安全は確保できているのではないか。品種改良と同様のものであると認識しているが、いずれにせよ、研究者はしっかりと説明すべきだと思う。なお、現時点では京都市場での取扱いはない。

(委員)

衛生管理の取組について教えてほしい。

(事務局)

HACCPに基づいた衛生基準を上回る京都基準を策定しており、全国より厳しい基準となっている。また、衛生環境研究所による検査も行っている。

(事務局)

検査業務については、保健福祉局所管となっているため、場長の直轄とし、一元的に管理できるように検討をしてきたが、まだ実現には至っていない。

3 令和5年度の施設整備予定箇所について

意見なし

4 その他

(「新水産棟見学エリアについて」を報告)

(委員)

5時から約1時間程度は魚が並んでおり、見応えがあると思う。他市場では、限られたスペースでしか見学できず、全体が見渡せるのは、おそらく関西では京都のみではないか。

(事務局)

市場機能をわかりやすく、かつ簡潔にまとめることに苦勞している。今後、新青果棟でも見学エリアを整備する予定であり、最終的には、水産部門と青果部門とを一体的にご覧いただけるものとなる。